

【CWSA Japanの競技ルール及び判定基準【D.I.V.E】について】

CWSAでは、D.I.V.E.(ダイブ)システムという方式で競技者の採点を行います。

基本となる仕組みは、「参加者の中でだれが一番上手いか？」という相対評価方式です。

CWSAは世界で最も早くウェイクサーフィン競技会を始めた団体で、このジャッジ方式を長年の経験の中で進化させ、現在の形となっております。

今日においては、世界中でCWSA以外の競技団体や、企業がウェイクサーフィンの大会を行っています。

多くのジャッジ方式の基本的な部分はD.I.V.E.をモデルとしており、この数年で世界的にジャッジ方式の基礎も統一されました。

まさにウェイクサーフィンというスポーツ競技が、D.I.V.E.システムを基軸として国際的に確立したといえます。

以下、DIVEシステムの概要を説明いたします。

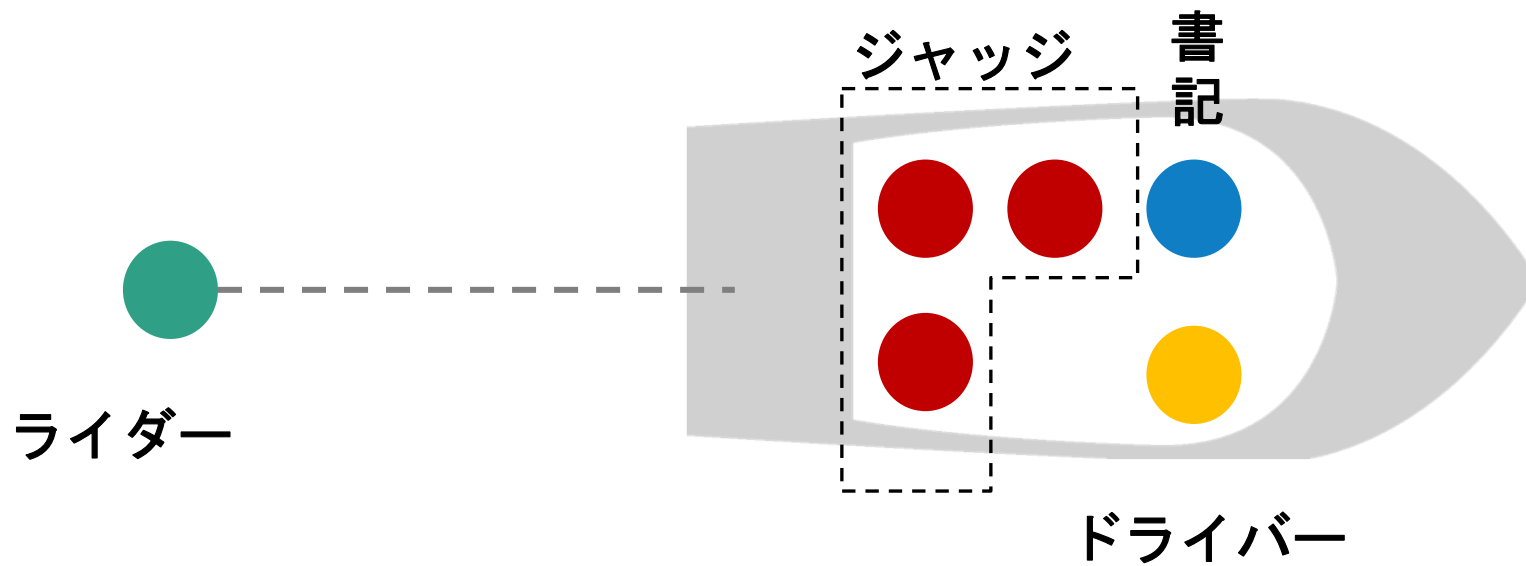


45秒程度で設定

【一般的なコースレイアウト】

- 1パス18km/h(11.2mph)程度で45秒程度の直線コース
- 上記コースを往復(2パス)
- 1パス2フォール

- 通常1往復で競技し採点します。片道(1パス)2回失敗(フォール)すると、そのパスは終了となり、2パス目をスタートします。2パス目を2回失敗すると競技終了となります。



- 後方ですべてしている選手を、船の上からジャッジがします。
- ジャッジは3名で、そのうちの一人がファーストジャッジと呼ばれ、ジャッジチームの責任者となります。

Difficulty

難易度

動作、トリックがどれだけ難しいか、難易度を計る点数

Intensity

印象度（力強さ）

選手がどれだけアグレッシブに力強く動いているかを審査する

Variety

多様性

最も多様性のあるトリックをみせた選手を審査します

Execution

完成度

ジャッジはどれだけクリーンに、上手に動作できたのかを採点する

CWSA大会に於けるジャッジ基準について

CWSA JAPAN

DIVEカテゴリーの説明 DIFFICULTY

難易度（DIFFICULTYディフィカルティ）

- 他のライダーと比較して、各マニューバ（トリック）の難易度の高さを比較する。スピン、ストール、SHOV系、エアー系、ランディングなどにおいてジャッジの主観で判断される。
難易度を判断する要素には以下のようなものがあるが、これらのみに限定されるものではない。
 - ノーマルORスイッチ、フロントORバックサイド（アプローチ~ランディング）
 - コンビネーション（トリックの組み合わせ）
 - グラブ、ボーン、ストール、その他の要素の複合
 - 革新的なマニューバ（トリック）の達成

DIVEカテゴリーの説明 INTENSITY

印象度（INTENSITYインテンシティ）

- ジャッジは、ライダーがトリックをいかにアグレッシブかつパワフルであったかを採点する。

印象度はジャッジの主観に基づいて採点される。

印象度を判断する要素には以下のようなものがあるが、これらのみに限定されるものではない

- マニューバ（トリック）の力強さ（例：スナップターンの後に大きなスプレーが上がっている）
- ポンピングやトリミングによっていかに加速を得てマニューバ（トリック）を行っているか
- 各マニューバ（トリック）間のペース
- 回転の速さ

DIVEカテゴリの説明 VARIETY

多様性 (VARIETYバラエティ)

- トリックの多様性は、最もトリックが多様なライダーを決定する
- ウェイクサーフィンには次のようなトリックのカテゴリーがある。
 - ターン、オーリー、エア、SHOV系、ローテーション (体の回転またはボードの回転、あるいはその両方、エアーまたはサーフェイス、フロントまたはバックサイド)
 - カテゴリーに多様性がある方が評価される。
- 多様性を判断する項目には以下のようなものがあるが、これらのみに限定されるものではない。
 - 様々な操作 (ターン、オーリー、エア、SHOV系、ローテーション) を行ったか
 - 同じカテゴリーのトリックを繰り返していないか(例：360/720はすべて同一方向・同一操作に基く)
 - 様々なグラブ(GRAB)を行ったか、同じ場所のグラブを繰り返したか
 - コンビネーションの組み方 (360+720は同一カテゴリ、エアー+360は異なったカテゴリ)
 - フロントサイド・バックサイド両方の向きで行われたか？
 - トリック数は絶対的な決定要因ではありませんが、適切に考慮されます

DIVEカテゴリーの説明 EXECUTION

完成度（EXECUTIONイェクジュヨン）

各トリックが全体の流れの中で、いかに上手に行われたか、またボードコントロールやトリックの連続性が重要である。ジャッジは、いかに”クリーンで完成度が高く”実行されたかについて注意深く見る必要がある。

完成度はジャッジの主観に基いて採点される

完成度を判断するには以下の項目があるが、これらに限定されない。

- 各マニューバを実行中の体やボードの安定性の維持
- スムーズかつ簡単そうにマニューバ（トリック）を実行している
- 努力しているそぶりを見せずに各マニューバ（トリック）を実行している（EFFORTLESS TECHNIQUE）
- グラブの完成度（タイミング、手のもちかえ、掴む時間の長さや掴み具合）
- ボーンやストールの長さコントロール
- 全体の流れ、構成、スタイル
- ポジションのキープ（マニューバ（トリック）実行後に後方へ流されずに、適切な場所をキープ）
（360を行った後に後方に流されず、次のマニューバ（トリック）へ安易に繋ぐことができる）

Q & A

Q：同じマニューバ（トリック）を繰り返した場合の採点は？

A：各選手を相対的に審査しますので、全てのマニューバ（トリック）が、異なるカテゴリー（多様性）で実行された選手と比較した場合、同一トリックの繰り返しは多様性で劣り、完成度・印象度共に一度目のトリックが完成度の悪いものとして捉えられます。同一トリックを繰り返すことによりジャッジの印象も悪くなる傾向があります。上記を踏まえた上で繰り返すのは自由です。1回目のトリックには固執しませんが、ジャッジの主観に委ねられています。